

日本心血管理学療法学会「COVID-19 関連情報特別チーム」
海外の専門情報

No.58

調査者	松木 良介, 井澤 和夫
情報ソースの刊行日	2020年7月22日
情報ソースの調査日	2020年9月5日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年9月10日
日本語タイトル	心不全患者における加速度計で評価された身体活動に対する COVID-19 全国隔離政策の有害な影響
情報ソース	Vetrovsky T, et al. The detrimental effect of COVID-19 nationwide quarantine on accelerometer-assessed physical activity of heart failure patients [published online ahead of print, 2020 Jul 22]. ESC Heart Fail. 2020
情報のカテゴリー	心疾患全般
発信地域	ヨーロッパ (チェコ共和国)
DOI	10.1002/chf2.12916
URL	https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7405478/
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期にわたる隔離による習慣的な身体活動の減少は、心不全などの心血管疾患の患者に悪影響をもたらす可能性がある。 ・ 心不全患者における加速度計で評価された身体活動に対する COVID-19 隔離政策の影響に関する調査である。 ・ 心不全患者 26 名 (NYHA II / NYHA III: 23 名 / 3 名)。 ・ 患者の手首に活動量計 (Garmin Vívofit) が装着された (解析基準: 10 時間以上 / 日装着)。 ・ 隔離政策の開始前後 3 週間における 1 日あたりの歩数について調査・分析された。 ・ 隔離政策の開始前後 3 週間における 1 日あたりの歩数は、1134 歩減少した (減少率 16.2%)。 ・ 患者の身体活動の低下は、体力の低下、健康状態および予後を長期的に悪化させる可能性がある。 ・ COVID-19 パンデミックの間は、家庭用のリハビリプログラムに参加することが重要かもしれない。
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか?	<ul style="list-style-type: none"> ・ COVID-19 パンデミックによる心不全患者の活動量の低下の程度について調査・分析されている。 ・ 身体活動の低下を評価し、それを改善する、または補う方法を構築することが求められる。